



指定障害者支援施設

さやま園  だより

GOOD DAY SUNSHINE PROJECT!

昔々、まだまだ青かったころ、哲学書や宗教書を斜めにかじり、『生』や『死』について悩んだことがあった。どう結論着けたのか、その経過やイメージは残っていないが、いわゆる青春の1ペー
ジの遠い記憶である。懐かしいやら、恥ずかしいやらその頃の本は棚で埃をかぶっている。

大人になって、「福祉」の片隅で禄を食み、親戚知人以外の死と向き合う場面が増え、再び『生』と『死』を考えることが多くなつた。若い時の感覚はきれいに消えて、現実路線を突き進む。

特に最近、自らの終焉をわりと身近に感じて、「よく生き、よく死にましよう」などと言うようになった。

「寿命」と言う言葉を噛みしめるようになったと言い換えてもいい。

障害者だったか、その家族だったか、難病者の家族だったか、そのへんの記憶が定かではないが、次のようなことを言っていた。強く印象に残っている。

80歳で死のうと5歳で逝こうと実は同じなんだ。その人に与えられた寿命を全うしたと考えれば、その死は無駄でもないし、永遠に悲しむべきことでもない。要は、与えられた寿命をいかに生きたかと言うことなんだ。

わかったようで、わからない話だと思ったが、咀嚼していくうちに、合点がいくようになってきた。なあーんだ、そういうことなんだ。少し雲が開けた気になった。

ところが、今度はそうはいかない。

何を言ってるやがる。ふざけたことを言うんじゃないよ。

どう考えても、運命や寿命なんかではない。よく生きたかもしれないが、りっぱな死だとは絶対に言わせない。

理不尽とはこのことだ。不埒な悪行である。

巷では、事件の分析に喧しい。あれこれと専門家とやらが、後出しジャンケンに忙しい。確かにそうでございませう。おっしゃる通り、その通り。それをさ、7月25日までに言ってくればね。なんでも、誰でも言えるのよ、後出しジャンケンは。

やまゆり園を訪ねた。

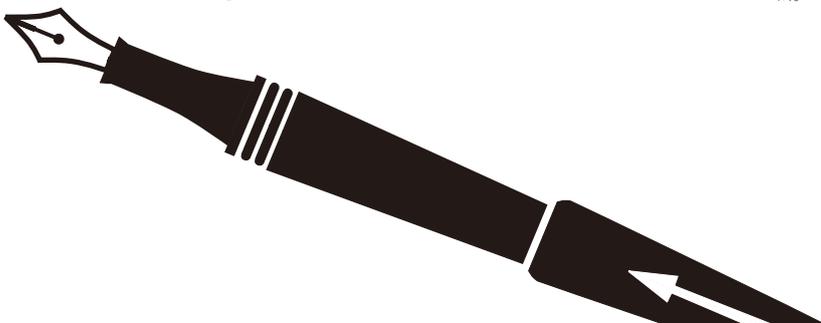
穏やかな雨間の午後、まるで何もなかったかのように、相模湖のロケーションにじっくり合っていた。合掌するしかすべがなかった。無心で祈った。

これから私たちは何をすべきなのか。答えは、いいえ、何もできません。これから、自分たちの備えはできるかもしれないが、19人の魂に対しては、本当に何もできない。祈るしかできない。よく生きたという証も立てられない。好きな食べ物も知らない。肝心なお名前や人となりも知らないのだから。

やまゆり園の門の前で佇んでいると、雨上りの陽が差し、またセミが鳴きだした。

空蝉の殻は木ごとに留(とど)むれど魂の行くへを見ぬぞ悲しき

読人知らず『古今集』



さやま園宣言

『さやま園宣言』にあたって

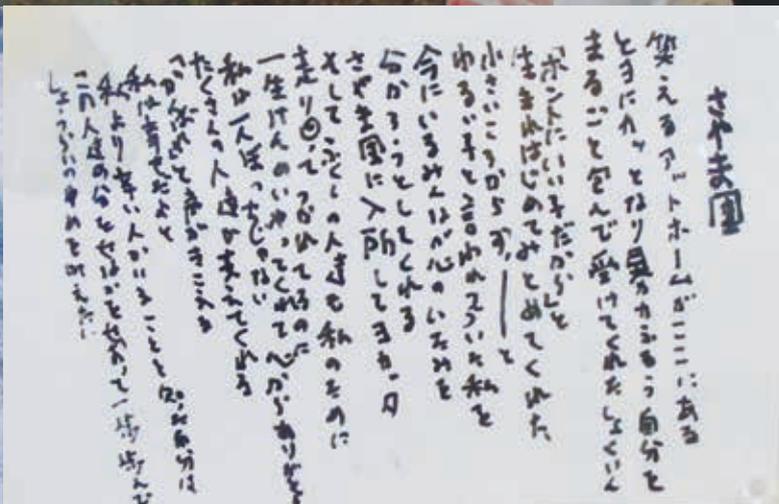
平成28年7月26日未明、神奈川県相模原市の障害者支援施設「津久井やまゆり園」において、利用者19名が死亡・26名が重軽傷を負うという、戦後最悪の殺人事件が発生しました。亡くなられた利用者の方とご家族の皆様に対し、心よりお悔やみ申し上げますとともに、負傷された方の心身ともに一刻も早い回復をお祈り申し上げます。

私たちさやま園は、犯人が言ったとされる「優生思想」や「障害者不要論」に対しては、否定の立場を取ります。その間違った考え方に、断固として反対いたします。

どんな人にも生きる意味があり、そのこと、その人の存在こそが価値なのです。

ここに、さやま園の利用者のみなさんは、絶対生きる価値のある存在で、職員はその利用者を全力で守ります、という『さやま園宣言』を製作することといたしました。

平成28年8月9日



左：横断幕に貼られた花びらには、利用者・職員の言葉が書かれています。右：花びらに納まらなかった思いは作文に。こちらと一緒に貼られています。

藍の生葉を使った染めのワークショップ

「ワークショップをやろうと思って!」

手渡された資料を見て、私は「?」だった。

「Aさんの提案なんだけどさ、面白そうだよね」

その聞き慣れない言葉に少し頭がフリーズする私。

「8月の初めにやるから、目を通しておいてね!」

そう言って、広報委員のBさんは去って行った。

資料を手に、1人廊下で、必死にそれを理解しようとした。が、考えてもよく分からなかった。

こうして、今回のイベントが始まったのだった。

さやま園の広報委員会に力を貸してくれている、デザイナーのAさん。そして、「Aさんからの持ち込み企画だよ!」と、目を輝かせながら資料を渡してくれた、広報委員のBさん。私は、その二人の波に乗らねば!と奮起し、まずはワークショップというものについて調べることにした。

ワークショップとは、簡単に言えば「参加体験型のグループ学習」。さやま園的に言えば「みんなでわいわいモノ作りをしよう」という感じ。しかも、地域の人も参加するという今回のイベント。何やら楽しそうな気配!

参加体験型で能動的な活動とはいえ、講師の方は必要。そこで紹介されたのが、ユキハシトモヒコさん。自身を「旅する服屋さん」と称し、世界中を旅してその土地で洋服を作り、さまざまな人々と交流をしている。そんなグローバルな人がさやま園に来るんだ!考えただけでも、わくわくしてしまう。

8月某日。さやま園の陶芸室に、利用者十数名と地域の人数名が集まった。全員割烹着を着て、さあ何が始まるのだろう!と談笑し

ている。とその時、講師のユキハシさんの明るい声でイベントが始まった。

ワークショップの題材は、「藍の生葉染め」。藍染めやったことあるよ、という利用者は一人しかおらず、ほぼ全員が初体験であった。ユキハシさんが手順を説明し、今回は手ぬぐいを染めることになった。手ぬぐいを輪ゴムで縛ったり、葉を叩いたり、みんな思い思いの柄を作っていく。「正解はないからね」ユキハシさんは言った。さやま園の利用者にとって、なんとぴったりな言葉だろうと思った。みんな一人一人違い、型にはまらない、そんな人生を送っている。手ぬぐいをその人の人生に例えると少し大袈裟だが、きっとみんな、素敵な手ぬぐいを作るのだろうと、私は笑顔の利用者に向けてシャッターを切った。

「できたよ!」

園庭にずらっと並ぶ、さまざまな柄の手ぬぐい。染め汁を洗い流し、干して乾燥させるのだ。「これ、私の」利用者が言う。そこには、鮮やかなグリーンに染まった素敵な手ぬぐいがあった。「すごいね!」私は、大袈裟でもなくお世辞でもなく、ただ純粋にそう思った。誇らしげに微笑む利用者。ああ、彼女の人生もそうであってほしい。型にはまらず自由に、誇らしく生きてほしい。夕日に照らされ風になびく手ぬぐい。それはまるで、彼女自身が輝いているようで、私は胸がぐっと熱くなった。

「ねえ、おやつ行こうよ!」

利用者の言葉に、私は気が抜け思わず笑った。ほんと、自由に生きてるなあ、と。

広報委員 園田奈那





8月5日、ボーダレスプロジェクト第1弾として、利用者・職員・一般参加者が、一緒に染めのワークショップを行いました！

講師のユキハンさんは、旅をしながら服をつくるアーティスト。
ご実家で育てた藍を自ら刈り採って、今回のワークショップに持ってきてくださいました。よく知られている藍染は、藍の葉を発酵させた液につけて染めるものですが、今回の生葉染めは、摘みたての葉っぱで染めます。生葉染めは、葉っぱが育った6月～8月の期間限定の染めなのです。

藍の生葉染めの手順

—手ぬぐい編—

- 1 タンパク質成分がないと上手く染まらないため、大豆の汁で下処理したサラシを用意します。余談ですが、ウールや絹の場合はその下処理なしで染まるそうです。
- 2 生地に模様を作ります。フレッシュな葉っぱを生地にのせ、たたいて形を写し取ったり、ビー玉や割り箸・ピーズなどに生地をかぶせて輪ゴムで留めて絞りを作ったり、思い思いに模様作りの細工をします。
- 3 細工の終わった生地をミキサーにかけた藍の葉の汁に漬け、10分～15分手でひたすら揉み込みます。
- 4 水洗いして、細工したビー玉等の細工を取り外し、再度水洗い。
- 5 広げてみるといろんな柄が浮かび上がります。それを乾かしたら、できあがり。



DAY ACTIVITY REPORT

日中活動レポート あおぞら ～資源回収の旅～

資源回収の活動は3年前に始まりました。現在は、男性7名・女性1名で行なっています。月・火・木・金は近隣のマンションや、団地、施設のアルミ缶・新聞・段ボール・古紙の回収をおこない、水曜日は近隣の草取りやゴミ拾いをしております。地域へも少しずつこの活動が浸透してきました。

あおぞら 担当：西川職員の話

カンカン照りで暑くても、雨が降って寒くても、嵐でも地域に出て行きます。

利用者の方々は『自分の仕事』として捉えていますので、安全に活動が継続していけるよう配慮していくと共に、地域の方々のご協力を頂きながら取り組んでいきたいと思っています。

資源回収 メンバー紹介 担当：風間職員

リヤカーを引き、メンバーを先導してくれる 清水さん

大きな声で回収場所をまわる宣伝部長の 細貝さん

地域清掃で汗だく・真っ黒になりながら草を集め、小さなゴミも逃さない 小金井さん

回収した缶を丁寧に洗ってくれる 樋口さん、ハイスピードで洗うのは 加谷さん

仕事おわりのコーヒーが楽しみな 風間さん

みんなが頑張れる----- その源動力は、やはり

『待ってましたよ』

『ご苦労様です』

『うちのも、回収お願いしますね』と地域のかたのお声があるからです。

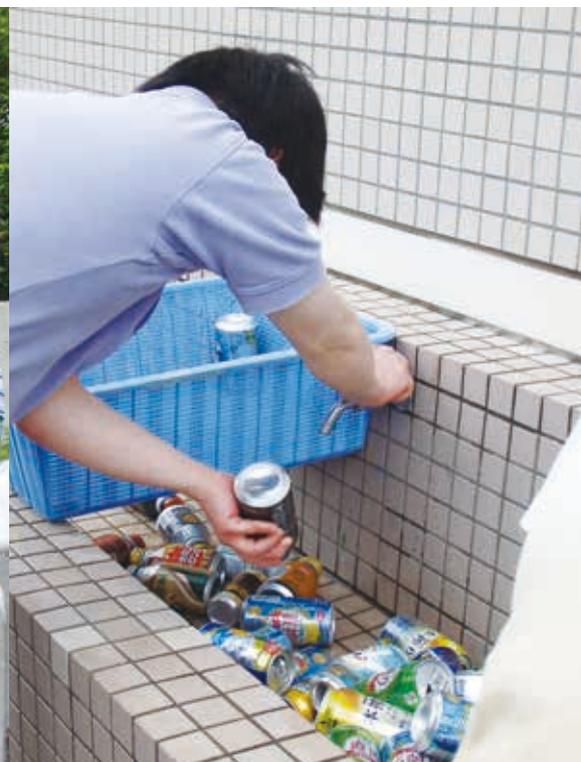
そして、仕事後のコーヒー 一杯は格別です！

誰かのお役に立てるって・・・自分自身がとっても豊かになります。

いろんな経験も積めるし、新しい出会いもあります。

そして、なにより自信がつくんですよっ！

だから今日も地域に出ていきます！今後とも、よろしくお願いします！





資源回収 ルートマップ

ROUTE MAP



- 月曜日：BOX設置・回収
 - 火曜日：回収
 - 水曜日：草とり・回収
 - 木曜日：BOX設置・回収
 - 金曜日：BOX設置・回収
- ★：設置・回収ポイント



GALLERY



「みんなで遊ぶ」安東さん



「カラフルピジョン」橘さん



「めだかの学校」坂東さん

第31回障がい者総合美術展 入選作品

職員のつぶやき

「何やっているの?」「早くしなさい。」「いい加減にして。」
イライラ・・・ムカムカ・・・
このような光景が我が家で毎日あります。
わかっているけど我慢ができません、一言余計な言葉がでる。
子育ては自分の鏡というけれどまさにその通り。母親の介護もしかり。
いけないと反省しても素直に謝れず、火に油を注ぐことも
子どもは良く見えていますね。
わざとカチンとくる言葉を発したり、親への冷静な批判があったりと。
毎日が格闘の日々。勉強の日々です。
打開策として、日記でも書いて振り返りをしようか。読書でもして勉強してみようか。
妻の対応のまねをしてみる?毎日照れくさいけど感謝の言葉を伝えないと・・・
と考えてはいますが
子どもと向き合う時間をつくりながら地道にコツコツ。支援と同じですよね。
自分が変わらなくてはと思いつけているが、さていつになったら。
自分が変わるのか先か?子どもの成長が先なのか?現状が更に悪化するのか?
楽しめる自分でいたいですね。

さて皆様のご家庭はいかがですか?

副園長 三瓶達矢

お知らせ

*カフェさやま始動!

現在手作りパンを園内販売中。10月16日(日)には、さやま園祭での販売決定。乞うご期待!

*サロン・すまいる

毎月ブタレーヌやクッキー、ブラウニーなどを販売しています。

日時: 毎月第4木曜日 14:00~16:00

場所: 東村山市富士見町 第3万寿園 1F

詳細はさやま園 サロン・すまいる担当までお問い合わせください。

行事

《報告》

7月: 夏祭り

8月: 藍の生葉染めのワークショップ

THE シークレットイベント 2016 夏 すいか割り

9月: GH 交流会

《予定》

さやま園祭 10月16日(日) 10:00~14:30

クリスマス会 12月20日(火)

新年会 1月12日(木)

節分 2月3日(金)

編集後記

過ごしやすい季節となりました。読書、芸術、スポーツ、色々なことにやる気が満ちてくる秋。

カフェさやまのオープンに向けて8月から手作りパンの園内販売を行っています。園内に香ばしい香りが漂い、秋だからか、いや、夏でも沸く食欲……。秋は旅行やさやま園祭があったりと行事がたくさん。健やかに楽しい日々を過ごせますように

発行元: 指定障害者支援施設 さやま園

発行責任者: 宮本浩史

住所: 〒189-0024 東京都東村山市富士見町2-7-13

TEL: 042-391-3275 ・ FAX: 042-391-3276

さやま園のホームページができました!

Let's access!

<http://www.sayamaen.com>

